学校番号	1013

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校日本史Ｂ　新訂版　（清水書院）						
副教材等	使用しない						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・わが国の伝統と文化の特色を、歴史の流れと積み重ねの中で考える。
・歴史の考察を通して、現在や未来の日本のありかたを考える。

2　学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的考察力を培う。
・わが国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察する。
・一般的な歴史上の基礎事項を身につけたうえで、時間軸に沿って物事を考える思考法を習得する。
・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と素質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	C：資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	わが国の歴史の展開に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、日本国民としての責務を果たそうとする。	わが国の歴史の展開から課題を見出し、多面的・多角的に考察しわが国の伝統や文化に対する認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、その家庭や結果を適切に表現している。	わが国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	わが国の歴史の展開についての基本的な事項を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート 休業中などのレポート ノート 授業中の発言・取り組み状況	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート ノート	定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	原始・古代	第１章　日本文化のあけぼの 第２章　古代国家の形成と東アジア 第３章　律令国家の成立と都城 第４章　古代国家の推移と社会の変化	 ○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ 	 ○ ○	a：古代の政治史や経済社会の仕組みについて関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b：原始・古代の文化がなぜ、どのようにして成立したのかを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c：必要な資料・写真などを収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。 d：古代律令制の成立までと、その改編について、理解し、その知識を体系的に身につけている。	定期考査 ノート ワークシート 出欠状況 授業態度
二学期	中世	第１章　古代から中世社会へ 第２章　武家政権の成立と鎌倉文化 第３章　室町幕府と北山文化 第４章　下克上の社会と庶民の台頭	○ ○ 	 ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○	a：武家政権の成立や荘園制を基調とする中世の社会や経済に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b：中世の社会や文化の特色を民衆からの視点も意識したうえで多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c：中世社会や文化に関する資料や写真などを収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。 d：中世のそれぞれの時期におきた争乱などの大きな歴史事象を、社会との関わりの中で理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ノート ワークシート 出欠状況 授業態度

三学期	近世	第１章　中世から近世社会へ 第２章　幕藩体制の成立と国際関係 第３章　幕藩体制の展開と元禄文化	○ ○	 ○ ○	○ ○	○ ○	a:信長・秀吉の天下統一事業や、幕藩体制の成立過程の社会の変容に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:江戸時代の民衆の生活や、庶民支配のしくみについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:豪壮な桃山文化や、町人の力が台頭した元禄文化などについて、資料や写真などを収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。 d:幕藩体制の成立とその特色や社会のしくみについての基本事項を、ヨーロッパ社会との接触や、アジア各地との関係と関連づけて理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ノート ワークシート 出欠状況 授業態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。